

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 25 年度

事業所番号	2790300095		
法人名	社会福祉法人いわき会		
事業所名	グループホーム錦の里		
所在地	大阪府寝屋川市錦町20-5		
自己評価作成日	平成 25年 11月 15日	評価結果市町村受理日	平成 26年 1月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2790300095-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 12月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能ホーム/グループホーム「錦の里」では利用者様の住み慣れた地域での生活を支えるため、家庭的で暖かな雰囲気、笑顔とふれあいによる居心地のよい環境を整え利用者様とご家族様の心のケアを行い安心と信頼で喜び広がる幸せ作りの場として「ともに」「たのしく」「和やかに」暮らし続けられるよう努めております。また「気づき」のケアを重視し保持する能力を活かす工夫を常に考え支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3年前に開設したグループホームで、同じ建物内に小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。関係者の努力により、ホームは家族や利用者、職員、地域など、相互の不安定な状態を完全に脱却し、家族の評価も得られて、順調な運営ができています。地域の理解と協力が得ており、利用者は地域のイベントに招待されたり、訪れる多くのボランティアと会話や音楽を楽しむなど、地域とは日常的に交流ができています。職員間のチームワークが醸成され、職員の退職もなくなり、利用者は優しい職員のサポートを受け、美味しい食事と安心のある医療体制に支えられ、元気で笑顔のある楽しい生活を過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関の見えやすい所には、法人の理念を掲示して、管理者、職員等が理念の共有に繋げ、グループホーム入口には、錦の里の方針を掲げ共有を行い、ユニット内でも目標を決め職員が見える所に張って、共有し実践につなげている。	『「私たちは、利用者様の声を傾聴します」「私たちは、思いやりの気持ちを忘れません」「私たちは、個人として尊重される介護を目指します」「私たちは、寄り添う心をもっています」「私たちは、一期一会を大切にします』を錦の里の方針と定めるとともに、職員が話し合っ毎月の業務目標を決め、明示しています。定例のリーダー会議やユニット会議、毎日の業務等を通じて職員が方針を共有し、介護サービスに反映させ、利用者が安心して楽しく生活を続けられるよう、家族、地域の方と共に支えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、積極的に参加を行い小学校の運動会やお祭り、町内会全体で行う清掃やお餅付き等に地域の一員として参加し、地域の商店街での買い物や散歩を通し交流している。	利用者は、地域の清掃活動や小学校の運動会、お餅つき大会に参加し、子ども会の古紙回収にも協力しています。事業所は地域のお祭りで、お神輿の休憩場所を提供したり、「介護に関する相談を受付けています」との掲示を貼り、介護相談にも応じています。利用者は、地域のボランティアと書道やオカリナ演奏、音楽体操などを楽しみ、市が主催するボランティアとも会話がはずんでいます。また、火災発生時に屋外へ避難した利用者を見守ってもらうよう、地域住民とも話し合いを行っています。現在、事業所は地域の要請で「独居高齢者の自宅の鍵の預かり」を来年春から実施できないか、小学校校区の地域福祉委員会、自治会組織等、地域の関係機関とも協議を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の情報発信地となるように相談に来られた地域の方や家族の方の思いを聞き、ケアのポイントになるような助言を出来る限り行っている。運営推進会議にも地域の役員さんに参加していただき認知症の方の理解を深めており、施設入口等に「介護に関する相談（お気軽にぞうご相談下さい）」等の貼り紙を行い地域の方に活かしている。また、自治会役員との会議を持ち、地域独居の方の安否確認の為、自宅の鍵を預り、独居の方の安全な生活を守る取り組みにも協力を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度定期的に運営推進会議を実施し、施設の利用状況や地域行事への参加、施設に対しての意見を入居者、家族、町内会役員、市役所職員、包括支援センター職員から聞かせて頂きサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回、地域包括支援センター職員、自治会会長・副会長、老人会会長、利用者、家族の参加のもと、開催しています。会議では、利用者の状況や各種行事、研修、地域との交流等について説明し、参加者と意見交換をしています。会議で、夜間の避難訓練を想定した訓練に、自治会役員からも協力の話が上がり、9月の訓練に、自治会会長・副会長が参加しています。次回の避難訓練には、地域役員も見学する予定です。老人会からの協力もあります。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者、社会福祉協議会の職員等に現場の実情を積極的に伝え、必要があれば訪問又は、来訪して頂き、課題解決に取り組んでいる。</p>	<p>市職員、市や地区社会福祉協議会職員、地域包括支援センターの担当職員とは、報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。地域包括支援センターが主催する、地域密着型サービス事業所との交流会に参加するとともに、地域と施設との交流事例の発表会に、モデル事業所として発表するよう要請を受けています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアル等で何が拘束なのかをスタッフ間で共有し拘束のないケアをめざしている。施錠に関しては不審者（酒酔者）の来訪もなくなっており、ユニット玄関の鍵は開錠を行っている。身体拘束をやむを得ずに行う場合は、家族様に十分に説明をした上で同意書を頂き、毎月カンファレンスを行い、出来るだけ早い拘束の排除を行うよう取り組んでいる。</p>	<p>職員は法人や事業所の身体拘束廃止委員会で研鑽を重ね、意識の向上に努めながら、身体拘束のないケアに取り組んでいます。玄関扉とユニット扉については、職員間で話し合い、日中の時間帯は開錠しています。また、外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内の虐待については、職員全体で入浴、排泄時等に注意を払い防止に努めており、ユニット内でも職員間で何が虐待になるのかを話し合い確認を行っている。また、以前、自宅で虐待を受けている方を措置入居で受け入れを行った。今後とも積極的に受け入れを行います。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人や日常生活自立支援制度を利用されている入居者が多くいる為、実際に入居者と関わりを持ちながら、制度を学び活用できるように支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時には入居者や家族等に十分な説明を行い不安や疑問点を尋ね、不明な点については納得されるまで説明を行い、契約後でもわからないと言われた場合には随時訪問させて頂き説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様やご家族様を運営推進会議に出席して頂き、ご意見、ご要望等をお聞きして運営に反映させている。又、ご意見箱の設置もを行い、意見を取り入れるように努力している。</p>	<p>家族へは、面会時に利用者の生活状況や連絡事項を伝え、健康や安全に関わる事項については、その都度家族へ電話で報告しています。運営推進会議には、利用者や家族も参加し、希望を伝えています。家族参加のイベントも多く、家族アンケートもしています。家族の要望により、日中の様子等がわかるニュースとして、1月から毎月たよりを発行し、家族に送付しています。たよりに、利用者の日ごろの様子がわかる写真を多数掲載し、行事や利用者の担当職員や新しい職員の紹介もあり、家族から喜ばれています。介護計画の見直し時、家族もサービス担当者会議に参加し、希望を伝えています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、リーダー会議、ユニット会議を実施して職員の意見を聞き運営に反映させている。	職員は、定例のリーダー会議やユニット会議、日常の業務等を通じて、意見や提案をする機会があります。昨年は職員の退職者が多く、職員の確保に努めていましたが、今年は、職員のチームワーク向上について話し合いました。その結果、責任感とチームワーク向上の意識が生まれ、退職者は激減し、家族の評価も上がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内にすぐやる課の設置を行い業務の改善に取り組んでいる。勤務時間の時間帯については、以前時間帯を変更しスタッフがしっかりと休みが取れ日勤帯に人員不足とならないような時間帯に変更を行った。(夜勤を1勤→2勤)又、資格取得を奨励してやりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりの持つ力量を見極めると共にお互いのケアの方法や技術をユニット会議で話し合い介助方法や技術を勉強している。施設内外の研修には、出来る限り参加すると共に参加できなかった人にも分かるよう伝達講習を行い知識の向上に努め、報告書や資料も見られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や地域包括支援センターが主催する他事業所の意見・情報交換会などに参加している。また、発表の機会を頂き積極的に参加できている。 担当ケアマネが連絡会等の事業所連絡会にも参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合は入居者ご本人に必ず一度居室を訪問して頂くように声かけて実行している。入居者様ご本人に安心して、入居して頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時に困っている事、不安な事、要望などを聞いて確認させて頂くように努めています。また不安がある場合には、入居契約後であっても、来所して頂き説明して信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時の聞き取りは必ず行い、必要と考えられるサービス等は高齢介護室、社会福祉協議会等の公的サービスやその他のサービス等に確認し対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできない事に注目するのではなく、できる事に目を向け得意な事を促すように努め、読書が好きと聞けば本を用意し、裁縫が得意な方には、縫物を手伝って頂き支え合い関係を作っている。また、ハーモニカの得意な方には、演奏会等で本人の意欲を引き出せるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族との絆を深めて頂く為、基本的な面会時間は決めているが、家族様の都合に合わせて外出、外泊、外食等を自由に行って頂いている。また、ご家族へは、施設での食事風景や生活状況等の写真を載せた通信を郵送してご家族と入居者様の絆を繋ぐ事や外食の機会を持ち、ご家族にも参加して頂けるよう声掛けさせて頂き、入居者、家族、職員と一緒に外食の機会を持ち関係を築いて頂き大変喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族様や知人の方の面会は自由でいつでも来ていただけるようにしている。</p> <p>又、馴染みの場所やお店などを訪れて頂き、関係が途切れないよう努めている。</p>	<p>家族は気軽にホームへ行き、利用者の衣服の入れ替えや部屋のレイアウト等をしています。毎週月曜の夜に、家族と共に行きつけのお店へ、好物のお好み焼きを食べに出かける利用者もいます。行きつけの理容室へ行くなど、馴染みの関係が途切れないように支援しています。利用者と共に遠方にある墓参りを希望された家族には、介護タクシーやヘルパー等の情報を伝え、実現しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>イスやテーブルの配置等施設内の配置を常に考え必要な場合は座る位置の移動を行う。入居者が楽しく孤立しないように支援し、不穏状態等の場合にも、移動先の入居者に確認後、一時的に席の変更させて頂いている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他事業所へ移られても、必要な情報は提供している。</p> <p>転居された方に対しても面会等を行い、関係が切れないようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や声かけの際、入居者の表情や態度からその日の気持ちや状態を把握して必要な場合は居室にてお話を聞かせていただいている。	前回の外部評価以降、利用者の担当職員を決めて、利用者の希望や意向の把握に努めています。聞き取った思い等は「気づきノート」に記録していません。担当職員の休みの時にも利用者の思いがかなえられるように、ユニット会議で利用者それぞれの思い等を伝え、職員間で情報の共有化に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや入居者様が以前利用されていたサービスの情報提供をもとに出来る限り今までの生活、暮らしを変えないよう知り得た情報を職員全体が共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの現状を観察し記録に残し、また必要があれば職員間で連絡を取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度の見直しは勿論だが、日々状態の変化がある時には、家族様の意見、意向を尊重しながらその都度会議で意見を出し合い利用者様に対し何が良いのかを探しながら計画の変更を行っている。また、月に一度ではあるが、ユニット会議でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。</p>	<p>介護計画は3ヵ月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。職員は、介護計画の支援内容をサービス提供記録表に記録し、毎日モニタリングを実施しています。毎月カンファレンスで話し合い、3ヵ月毎の計画作成担当者のモニタリングを受けて、できるだけ家族も参加できる配慮をしながらサービス担当者会議を開き、介護計画の見直しにつなげています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>関わったそれぞれの職員が個人記録に適宜記入を行い、情報を共有し活かし、介護計画作成の基本としている。気づきノートや伝達ノートを活用してユニット会議で話し合いを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人が希望のある場合で、職員の対応が難しい場合には、介護保険外サービスを利用できるよう、家族や成年後見人等に確認して利用して頂けるように取組みを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方の活用や地域の行事に参加する事でリフレッシュして頂けるように心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ本人や家族に添った、かかりつけ医を中心として、それぞれと連絡を取りながら関係を築き、個人に合った適切な医療を受けられるように支援し、受診が必要な場合や希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている。	家族の同意を得て、多くの利用者が協力医療機関の在宅訪問診療制度を利用しています。協力医から月2回の往診を受け、医療連携している訪問看護師から、週1回の訪問看護を受けています。入居前からかかりつけの医療機関へ受診する利用者には、必要の都度、通院介助をしています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても体制を整備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は勤務していない為、訪問看護師に週一度、訪問して頂き、日常の関わりの中での気づきや情報を伝え、相談を行っている。緊急時には24時間連絡出来る体制を取っている。また、仙骨部の剥離を発見した際には、訪問看護師へ連絡、かかりつけ医と連携を行い、継続した訪問看護師の処置が必要と医師より指示後、介護職員は夜間、2時間毎の体位交換を行い、訪問看護師は処置の継続を行い協働を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の入院や退院時には、職員が家族、成年後見人等と病院に行き、入院手続きや説明を聞き、必要な場合は入院時の付き添いを行い安心して治療が出来るようにしている。また、入院先の医療連携室と連絡を密に行い、入院中の状態や退院後の対応について相談や情報交換等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、ご家族様が訪問された場合にお話をさせて頂いている。重度化になった場合は、このまま施設で見てもらえるのかと不安を訴えられる場合もあり、その都度説明を行い、ご家族様の意見や意向を聞かせて頂いている。ただ、家族様の中には、今は重度化となっていないために、今後考えます。と言われています。</p>	<p>これまでに看取りの実績はありませんが、ホームは看取りを実施する方針をもち、契約時に利用者の意向を確認し、職員も看取りケアの研修を実施していく予定です。今後、利用者が重度化した場合、できるだけホームでの生活が続けられるよう、状況の変化とともに、利用者や家族、医師、看護師、職員間で話し合いを行い、方針を共有しながら対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>訪問看護師による事故発生時及び初期対応の勉強会を定期的に行っている。全員参加できていない場合はミーティング等により伝達講習を行っている。また、事故、急変時スムーズに対応できるよう、希望搬送先やご家族の連絡先再確認、緊急時の職員召集順位などを決めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を通して昼夜の非難誘導や災害時の避難経路を災害マップで確認し、安全な避難方法を検討すると共に運営推進会議にて地域の方への協力要請や地域の商店街の消防訓練にも参加して協力体制をお願いしています。又、消防訓練時には自治会役員の方にも参加して頂き訓練を行っている。自治会役員のかたより、夜間の避難時には応援に来て頂けるとの声を頂いている。</p>	<p>年2回の火災・災害避難訓練を行い、うち1回は消防署の指導のもと実施しています。1回は地域の自治会の役員も参加して、自主的な避難訓練を実施し、自衛消防訓練結果報告書を提出しています。また地域とは、ホーム職員が地域の消防訓練に参加するとともに、ホームに災害が発生した場合は、地域住民が協力するという話し合いができています。災害時の食料と水の備蓄については、ホーム分だけではなく、地域住民の受け入れ分も若干準備しています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人内に接遇委員会を設置し入居者への態度や職員の接遇態度の研修会を行い、毎月の標語を施設内の良く見える所に貼り、職員の意識付けを行っている。職員の対応等、家族様へのアンケートも実施している。</p>	<p>職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮して、やさしい雰囲気です。職員は法人の接遇委員会に参加し、毎月の目標標語を決めて実行するなど、意識の向上に努めています。家族アンケートも行って接遇態度についての意見や要望を聞き、改善につなげる努力をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように声かけを行い自己表現や意見の言い易い環境や関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活面すべてにおいて一人ひとりのペースを尊重し、暮らしの主体者として入居者が自由に自分らしく生活できるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容を取り入れている。また、起床時は洋服を確認し、外出時には、外出着に着替えを行えるように声かけを行っている。又、化粧やマニキュア等も希望の場合に実施したが、訪問医師より健康管理が出来ないと理由から中止を言われ現在は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当施設では、食事の提供は栄養面や衛生面を考えて、食事は業者に発注しているが、以前の外部評価で、手作り食の機会を増やすよう指導を受けており、入居者と一緒に食事を作る機会を増やし、食べる際にも職員と一緒に食べさせて頂いています。	ご飯とみそ汁はホームで作り、クックチル方式で調理した副食を食材業者から取り寄せ、温めて提供しています。週に1回は、朝食と昼食を手作りしています。手作りの日の食材は、利用者も買物から食事準備、下ごしらえなど役割を持って参加し、楽しんでいます。職員は、利用者と共に同じものを食べながら、食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをしています。また楽しい雰囲気づくりにも努めています。誕生月には手作りケーキを作り、皆でお祝いをしています。外食にも出かけています。今は食物アレルギーのある利用者はいませんが、アレルギー対応のメニューも用意しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック、排泄、水分チェック表を作成して排泄時間や水分摂取量のチェックを行い一人ひとりの状態を把握し、一日の摂取量が確保できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様の自立度に合わせ、自分で出来る方には、促しを行い、口腔ケア介助が必要な方には職員が介助を行いチェック表で確認を行い、食前には口腔体操を取り入れ飲み込みがスムーズに出来るよう心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により排泄パターンを知り個人的にトイレ誘導や定期的なトイレ誘導をする事により失敗を少なくするように努めている。	排泄の記録をとり、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しています。利用者の仕草や表情から状況を判断し、声かけや誘導、見守りによる排泄支援を行い、トイレでの排泄ができています。入居前便秘で困っていた利用者が、服薬管理とタイミングの良い誘導でリズムを取り戻しつつある事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、毎日の運動やレクでの風船バレーの実施、おやつ時にヨーグルトや繊維質の食べものを提供し、排泄チェック表を使用して、KOTのカウントを実施、3日間排便がない場合は、医師の指示により、薬剤を使用して排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で曜日や時間帯を決めずに行うように支援を行い、午前中を希望される方や一番先に入浴を希望される方、一人で入浴を希望される方を把握して、見守り、介助を行い入浴して頂いている。また、入浴して頂けない方には、足浴を行っている。	利用者は、平均して週3回入浴剤を使って入浴を楽しんでいます。希望すれば毎日でも入浴ができ、足浴を楽しんでいる方もいます。菖蒲湯やゆず湯など、季節の行事風呂も実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には、スタッフが居室内で一緒に話をさせて頂いたり、フロアに来て頂き一緒にお茶を飲んで頂く等、安心して気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は、職員が行っており、各職員には、服薬の副作用や用法、容量は各個人ファイルにお薬の説明書を確認するように伝達している。薬の変更があった場合は変化を Dr に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の利用者様の生活歴を踏まえ、趣味嗜好・特技などの把握に努めており、自身の力を発揮できるような関わりを心がけている。また、プログラムやレクにおいても利用者様の意向を伺いながら実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い日や寒い日等の場合は、出掛ける事が出来ないが、個々の希望により散歩等の気分転換を行うように声をかけて外出を行うようにしている。またご家族様来所時には、ご家族様とご一緒に外出していただいている。	日常的に小学校周辺や公園の散歩に出かけ、駅前商店街やスーパー等への買い物、地域の交流イベントにも出かけています。季節の花見や少し遠出の遠足にも出かけています。ホーム職員より外出における提案があり、利用者が家族と遠方へ墓参りに出かけた事例もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理不能な方には、家族、成年後見人等と話し合い、金銭管理を施設で行っていき金銭出納帳を作成して、家族に残金確認をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	いつでも利用できるように支援している。希望者により、居室に携帯電話を置いて頂く。手紙がきたときには、返事を書くように支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、入居者が皆で作成した貼り絵や入居者が作成した作品を飾る等の工夫を行い、入居者が快適に過ごせるようにしている。又、スタッフが温度調節やカーテンで光の調整を行っている。	共有空間は明るくて広く、居間には大きな菩薩像や季節感のある貼り絵があります。利用者の書道や折り紙細工作品、人形、花、行事写真等も飾られており、利用者にとって優しく温かみのある生活空間になっています。前回の外部評価以降、ソファや椅子が配置され、利用者が少人数で寛げる居場所を確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、一人で過ごせる場所にソファを設置して、くつろぎを希望される方には、ソファにてゆっくりと過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し本人が落ち着け居心地良く過ごせるよう、ラジオ、テレビ、椅子、机等、各個人に馴染みのある品を置いて頂き、居心地の良く過ごせるよう努めている。また、本人に確認して、ぬり絵、書道等の作品を壁に貼っている。	入口に手作りのクリスマスリースで飾られた居室には、書道の先生だった時の自作の掛け軸や海外で買った民芸品の椅子、使っていた食器ケース、遺影、家族の写真等の思い出のものが持ち込まれています。孫の結婚式に出席できなかった利用者にも、孫娘がホームでウェディングドレスに着替えて一緒に写真を撮り、居室に飾っています。また、家族と一緒に制作している千羽鶴の暖簾や、亡くなった方の写真の周りに家族と一緒に花を飾る等、家族の温かい気遣いが感じられる居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には貼り紙を行い場所が明確になるように工夫している。		